



六華の心

酒田市立第六中学校
学校だより 第27号
校長 加藤 浩昭
令和5年2月6日

新入生を招いて～中学校生活を知る会～

1月27日（金）、来年度入学予定の新入生を対象とした「中学校生活を知る会」が開かれました。今日現在、来年度の新入生は117名の予定です。当日は1学年生徒会が、新入生を歓迎しようと会の企画から運営まで頑張ってくれました。

最初は緊張気味だった新入生も、交流レクリエーションを通して徐々にリラックスし、また部活動紹介に見入る姿が印象的でした。

校長からは、年末に行われたフードライブ活動を例に、六中が大切にする「六華の心」についての話、残り少ない小学校生活を悔いなく良いまとめをすると同時に、中学校1年生に向けた「0学期」と捉えて、新しい生活に向けた準備を頑張りたいという話をしました。4月、新入生が笑顔で入学してくる姿が楽しみです。



心を込めて校歌を披露



交流レクリエーションの一場面

当日のパフレットの表紙

「会計」について学びました

1月31日（火）、酒田市教育委員会の依頼を受け、会計教育のモデル授業を実施しました。当日は、3年3組、4組の皆さんが、「会計」のしくみや経済活動における意義や役割について学びました。講師は日本商業教育振興会代表理事で公認会計士の小島一富士先生。授業のタイトルは「中学生にとっての会計の意義」。小島先生は酒田光陵高等学校のビジネス会計科でも授業を重ねてきた先生です。

来年度以降、中学生にも「会計」について学ぶ機会を作り、キャリア教育の一助としたいという教育委員会の構想を受け、今回東部中学校と本校でプレ授業の形で実施されたという経緯があります。

当日は2時間続きの授業でした。授業の最初は、会計に関係する専門用語などに戸惑う生徒もいましたが、しっかり話を聞き「何とか理解するぞ!」という子どもたちの意欲の高さに感心しました。後半は身近な事例を元に授業が展開され、子どもたちの目の輝きが増しました。臆することなく問いかけに反応し、10分間の休み時間にも疑問点などについて質問をしたり、お互いに考えを交流する姿もありました。興味を持った生徒には「簿記検定」について学ぶためのアカウントを提供するというはたらきかけに対して、30名を超える生徒（先生方も含む）が希望し、3年生の「学びに向かう姿勢」の高まりを感じた2時間でした。小島先生や授業を参観した鈴木教育長、佐藤教育次長、高崎商科大学・酒田光陵高校の先生方からも、子どもたちの学ぶ姿を賞賛していただきました。



住民運動会に中学生の声を！

2月4日（土）、富士見体育振興会の「コロナ禍での学区運動会を開催する方向で考えるワークショップ2023」が開かれ、参加して参りました。参加した皆さんによる熱心な話し合いがなされました。

上記の会合に先立ち、「ぜひ、中学生の意見も聞きたい」というお話をいただき、1月30日（月）に本校を会場に中学生によるワークショップが開かれました。参加したのは富士見学区の地区生徒会の2年生代表の皆さん11名。富士見体育振興会の岩本さんがコーディネーターを勤めて下さいました。「どうしたら楽しい運動会になるか」、「中学生にできることは何か」等について話し合われました。4日の会合でも、11名の意見や話し合いの内容が掲示されており、参加者の皆さんに話し合いの参考資料としていただきました。



ありがたい声～どちらも六中生の姿～

立春も過ぎ、暦の上では春を迎えましたが、まだまだ寒い日が続きます。ここのところ、厳しい寒さの日もあれば、寒さが緩み、雪が雨に変わったりと天候も安定しません。そうした中、地域の皆様より以下のようなお話を頂きました。

ここ数日寒さが緩んで凍結した雪が溶け、車を運転するのも大変な状況がありました。そうした中...

○20名ほどの六中生徒が動けなくなっていたスィミングスクールの送迎用のマイクロバスを、力を合わせて押していました。

○雪にはまって動けなくなっている車を六中生が押してくれました。本当に助かりました。

同様のお話を複数いただきました。

酒田警察署の生活安全課より、地域の方からの情報ということで次のような連絡を受けました。

▲下校時に、凍結した新井田川の氷に乗ったり、土手を滑り降りたりしていて危険なので注意して欲しい。

生徒指導担当が、注意を促す放送をしたところ、1、2年生の男子約10名が「自分です」という申し出でくれました。見かけて注意してくれた3年生もいました。

困っている人に手をさしのべる言動が取れる人が六中にはたくさんいます。一方、時として正しい判断ができずに危ない行動を取ってしまったたり、周りの人に迷惑をかけてしまったりする事例があるのも事実です。できれば、常に正しい判断で行動することを期待したいと考えますが、人間ついでに魔が差したり、判断を過って失敗することがあります。他人の安全・安心を脅かしたり、自分を大きく傷つけたり、命に関わったりするような失敗は決してあってはいけませんが、小さな失敗を反省し、学び、改善していく経験も大切だと考えます。失敗した時に「自分がやりました」と認め、自己改善していける六中生であって欲しいものです。子どもたちの良さを教えて下さり、また、反省・振り返りの機会を与えて下さる地域の皆様の声に感謝申し上げます。